

安全文化醸成活動に  
おける重点施策の実施状況について  
(平成24年度上期末時点)

平成24年10月29日

関西電力株式会社

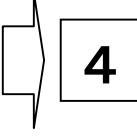
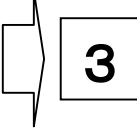
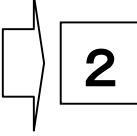
# 目 次

---

- 1 重点施策の実施状況の確認
  - 2 当社・協力会社における意思疎通の強化  
(社員・協力会社社員の意識のギャップを踏まえる)
  - 3 技術力維持にかかる社員育成策の充実、強化
  - 4 福島第一原子力発電所事故を踏まえ、広い視野から  
規制の枠にとらわれない原子力安全の更なる確保
- 参考 平成24年度 重点施策の方向性

# 重点施策の実施状況の確認

	これまでの取組状況	確認結果	今後の予定	関連視点
<p><b>継続</b></p> <p>当社・協力会社における意思疎通の強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○安全最優先の定期検査工程の地道な理解取得活動               <ul style="list-style-type: none"> <li>・大飯発電所3, 4号機の再稼動における安全最優先の再稼動工程や安全対策の状況説明の実施</li> </ul> </li> <li>○コミュニケーション意識の向上活動               <ul style="list-style-type: none"> <li>・職場懇談会等でのコミュニケーションレベルアップ集を活用した意識向上活動、職場交歓イベント等の実施</li> </ul> </li> <li>○協力会社からの改善要望提案に対する丁寧な回答説明と迅速な対応               <ul style="list-style-type: none"> <li>・協力会社提案処理業務フローの明確化、提案未処理リストの所内1共有化等</li> </ul> </li> <li>○協力会社とのコミュニケーションの更なる充実               <ul style="list-style-type: none"> <li>・協力会社連絡会等において当社を取り巻く環境の変化等を情報共有、技術力維持や人材確保等についてのアドバイス、支援の実施</li> </ul> </li> </ul>	<p>計画どおり実施中。 当社を取り巻く状況を踏まえ、取組内容の充実を図る必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○安全最優先の定期検査工程の地道な理解取得活動の継続実施               <ul style="list-style-type: none"> <li>・大飯発電所3, 4号機の次年度の定期検査に向け、体制・環境・エリア使用など多面的に課題を抽出し、発電所―事業本部間で共有、対応</li> </ul> </li> <li>○コミュニケーション意識の向上活動の継続実施               <ul style="list-style-type: none"> <li>・コーチング研修の実施</li> </ul> </li> <li>○協力会社からの改善要望提案に対する丁寧な回答説明と迅速な対応               <ul style="list-style-type: none"> <li>・発電所―事業本部間の定期的な情報交換および良好事例の水平展開</li> </ul> </li> <li>○協力会社とのコミュニケーションの更なる充実               <ul style="list-style-type: none"> <li>・協力会社連絡会等において当社を取り巻く環境の変化等を情報共有、技術力維持や人材確保等についてのアドバイス、支援の実施</li> </ul> </li> <li>○第9回社員・協力会社アンケートの結果を評価、分析し、必要に応じて今後の取組みの方向性を検討</li> </ul>	<p>視点⑦</p>
<p><b>新規</b></p> <p>技術力維持にかかる社員育成策の充実、強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○技術力維持・向上・継承上の課題の抽出および対応策の検討               <ul style="list-style-type: none"> <li>・現場を支える社員に必要な技術力のうち、維持・向上・継承が懸念される技術力や新たに必要となる技術力の抽出</li> </ul> </li> <li>○原子力安全に対する理解の深化方策の検討               <ul style="list-style-type: none"> <li>・原子炉主任技術者試験に積極的に挑戦させる方策の検討、実施</li> </ul> </li> </ul>	<p>計画どおり実施中。 当社を取り巻く状況を踏まえ、取組内容の充実を図る必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○技術力維持・向上・継承上の課題の抽出および対応策の検討               <ul style="list-style-type: none"> <li>・福島第一原子力発電所事故の教訓や原子力事業を取り巻く環境変化等が主たる要因で、懸念される技術力や新たに付与する必要がある技術力を中心に課題・対応策を分析、検討</li> </ul> </li> <li>○原子力安全に対する理解の深化方策の検討               <ul style="list-style-type: none"> <li>・原子炉主任技術者試験に積極的に挑戦させる方策の実施</li> <li>・9月と12月の社内試験結果および原子炉主任技術者試験の結果により、理解深化の状況を確認</li> <li>・今後の方策に関する評価、検討</li> </ul> </li> </ul>	<p>視点⑨</p>
<p><b>新規</b></p> <p>福島第一原子力発電所事故を踏まえ、広い視野から規制の枠にとられない原子力安全の更なる確保</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○推進体制の構築               <ul style="list-style-type: none"> <li>・原子力事業本部長をトップとする安全対策推進会議の設置</li> </ul> </li> <li>○更なる安全性・信頼性向上対策の実施計画の進捗状況の確認               <ul style="list-style-type: none"> <li>・第一四半期の実施計画の進捗状況を確認、検証委員会への報告後、国に提出</li> <li>・第二四半期の進捗状況の確認</li> </ul> </li> <li>○世界最高水準の安全性を目指した各種知見の検討ならびに反映               <ul style="list-style-type: none"> <li>・福島第一原子力発電所事故に関する事故報告書(政府事故報告書、国会事故報告書、東京電力事故報告書、民間事故報告書、INPO(米国原子力発電運転協会)報告書、大前研一氏主宰Team H<sub>2</sub>Oプロジェクト報告書)から知見・教訓等の抽出</li> <li>・シビアアクシデント対策プロジェクトチームの整備</li> </ul> </li> </ul>	<p>計画どおり実施中。 当社を取り巻く状況を踏まえ、取組内容の充実を図る必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○推進体制の活動の評価</li> <li>○更なる安全性・信頼性向上対策の実施計画の進捗状況の確認</li> <li>○世界最高水準の安全性を目指した各種知見の検討ならびに反映               <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後新たに出される報告書や知見の検討・反映</li> <li>・電気事業連合会で設立される独立新組織の設立準備、協力</li> <li>・設立後の独立新組織からの提言、勧告への対応</li> <li>・WANO(世界原子力発電事業者協会)の積極的な活用、活動への参画</li> <li>高浜発電所、美浜発電所のピアレビューに積極的に対応</li> <li>世界最高水準に比した改善要望事項への対応</li> </ul> </li> </ul>	<p>視点⑬</p>



2

3

4

# 当社・協力会社における意思疎通の強化

(社員・協力会社社員の意識のギャップを踏まえる)

## 活動の目的

これまでの活動に加え、ここ数年横ばい傾向である意識のギャップのうち、比較的ギャップの大きい項目に着目した新たな対応策を実施し、意思疎通の強化を図る。

## 実施内容

### 1. これまでの活動の継続的な実施

- (1)各所における地道な理解活動や個人マナー向上活動
  - ・各発電所において、地道な理解活動や個人マナー向上活動
  - ・安全最優先の定期検査工程(安全対策等)に対する対応策の具体的な取組み実施

### 2. H24年度新規の取組み

- (1)発電所毎に第8回(前年度)アンケート結果の周知活動
- (2)協力会社からの改善要望に対する回答の丁寧な説明と迅速な対応等の取組み
- (3)コーチング研修の若年層指導について充実し、研修を実施《下期実施》
- (4)原子力保修業務研修(共通)新規配属者コースについて充実し、研修を実施《下期実施》
- (5)協力会社とのコミュニケーションの更なる充実※

※当社を取り巻く環境の変化を踏まえ、実施項目に追加

### 3. 社員・協力会社アンケート(第9回)の分析・評価

## 取組状況(1/2)

### 1. これまでの活動による対応策の継続実施

- (1)各発電所において、地道な理解活動や個人マナー向上活動
  - ・「定期検査工程への意見」への対応  
平成24年度の定期検査予定はないが、大飯発電所3・4号機の再稼動にあたり、安全最優先の考えに基づく再稼動工程や安全対策の状況説明など、メーカおよび協力会社とのコミュニケーション活動を実施している。

#### ・「関電社員への意見」への対応

- コミュニケーション意識を向上させるための活動を実施している。  
(例)・職場懇談会等で、コミュニケーションレベルアップ集を活用した意識向上活動
  - ・職場交歓イベントを通じた協力会社の方々との一体感醸成活動
  - ・協力会社安全朝礼への参加、発電所長からのメッセージ発信、挨拶運動等

### (2)安全最優先の定期検査工程に対する対応策の具体的な取組み

大飯発電所3・4号機以外の再稼動が不透明な状況の中、長期停止中の安全対策や特別点検の作業に従事するメーカおよび協力会社従業員、社員は「安全最優先の工程策定」の理念等を記載した定検小冊子の携帯を継続している。また、教育や会議体の場で「安全最優先の工程策定」など繰り返し理解活動を実施している。

## 取組状況(2/2)

### 2. H24年度新規の取組み

- (1)発電所毎にアンケート結果の周知活動を実施した。《H24/6美浜、H24/8高浜・大飯 開催》
- (2)協力会社からの改善要望に対する回答の丁寧な説明と迅速な対応等の取組みについて、各所の課題への取組みを実施した。
  - ・協力会社提案処理業務フローの明確化
  - ・提案未処理リストの所内共有化
  - ・事前審査の迅速化
  - ・審査状況のお知らせ、提案の工事実施可否のお知らせ
  - ・安全衛生協議会事務局との定期的な意見交換 など
- (5)協力会社とのコミュニケーションの更なる充実
  - ・協力会社連絡会等を通して、当社を取り巻く環境の変化等の情報共有を実施している。
  - ・協力会社の技術力維持や人材確保等についてアドバイス、支援を実施している。

## 今後の対応

### 1. これまでの活動による対応策を継続実施

再稼動を果たした大飯発電所3・4号機の次年度の定期検査に向け、体制・環境・エリア使用など多面的に課題を抽出し、発電所-原子力事業本部間で共有、対応する活動を開始予定

### 2. H24年度新規の取組み

- (1)発電所毎に第9回(本年度)アンケート結果の周知活動《H25/1頃予定》
- (2)協力会社からの改善要望に対する回答の丁寧な説明と迅速な対応等の取組み
  - ・原子力事業本部と各発電所の定期的な情報交換と良好事例の水平展開
- (3)コーチング研修の実施《H24/12~H25/1予定》
- (4)原子力保修業務研修(共通)新規配属者コースの実施《H24/10、H25/3予定》
- (5)協力会社とのコミュニケーションの更なる充実

### 3. 第9回アンケートの分析・評価および今後の取組みの方向性検討

## スケジュール

実施項目	H24年度		H25年度
	上期	下期	
1. これまでの活動の継続実施			
2. 新規の取組み			
(1)アンケート結果の周知	▼	▽	
(2)改善要望への迅速な回答		▲	
(3)コーチング研修の充実・実施		▽	
(4)保修業務研修の充実・実施		▽	▽
(5)コミュニケーション活動の充実		▲	
3. 社員・協力会社アンケートによる分析・評価	アンケート実施 分析・評価	フィードバック	アンケート実施 分析・評価

## 活動の目的

- ・発電所において維持・向上・継承が懸念される技術力や福島第一原子力発電所事故の教訓等を踏まえて新たに付与等する必要がある技術力を抽出・整理し、必要な施策を検討する。
- ・福島第一原子力発電所事故以降、原子力安全に対する重要性が増していることから、若手社員に対し、原子炉主任技術者試験に積極的に挑戦させる環境を整え、原子力安全に対する理解を深化させ、原子力安全を理解した要員の裾野を拡大させる方策を検討する。

## 実施内容

1. 現場を支える社員の技術力維持・向上・継承上の課題の抽出及び対応策の検討
2. 原子力安全に対する理解の深化方策の検討
3. 活動の総合評価

## 取組状況

1. 現場を支える社員の技術力維持・向上・継承上の課題の抽出及び対応策の検討
  - (1) 対象となる技術力の抽出
    - ・現場を支える社員に必要な技術力の内、維持・向上・継承が懸念される技術力や福島第一原子力発電所事故の教訓等を踏まえて新たに付与等する必要がある技術力を発電所・各部門へのヒアリング等を通じて抽出。
  - (2) 抽出された技術力の整理
    - ・抽出された技術力を分類・整理中。
2. 原子力安全に対する理解の深化方策の検討
  - (1) 対象者
    - ・原子炉主任技術者試験を目指すための研修等が充実しており、学習する環境が整っている入社1年目の学卒社員を対象に先ずは実施。
  - (2) 原子力安全を学ぶことの必要性の認識の浸透
    - ・原子炉主任技術者試験の学習に取り組む必要性をしっかりと認識させ、前向きに学習に取り組む姿勢を引き出す。
  - (3) 支援内容
    - ・学習する前向きな姿勢を継続的に引き出すため、原子炉理論研修(レベルアップ研修)を受講するための社内選抜試験(12月)に加え、中間試験(9月頃)を新規に行う。
    - ・中間試験結果をフィードバックし、対象者に学習の振返りと弱点を把握させる。
    - ・学習状況等に応じて個別にフォローする。
    - ・高度な内容の問題解決に対し、社内専門家が必要に応じて支援する。
    - ・筆記試験合格者に対する面接試験対策を充実・強化する。

## 今後の対応

1. 現場を支える社員の技術力維持・向上・継承上の課題の抽出及び対応策の検討
  - ・福島第一原子力発電所事故の教訓や原子力事業を取巻く環境変化等が主たる要因で、懸念される技術力や新たに付与等する必要がある技術力を中心に、課題・対応策を分析、検討する。
  - ・適宜、発電所・各部門へのヒアリング等を行い、環境変化等により、対象となる技術力が新たに抽出された場合には、それらについても課題・対応策を分析、検討する。
2. 原子力安全に対する理解の深化方策の検討
  - ・各方策を実施し、9月と12月の試験結果及び原子炉主任技術者試験の結果により、理解深化の状況を確認する。
  - ・年度末時点で、1年目社員の支援方法の見直しや、2年目以降の支援の必要性等についてチェックアンドレビューを行う。
3. 活動の総合評価
  - 上記の個別施策の評価等を踏まえ、総合的な評価を行う。

## スケジュール

□ 計画 ■ 実績

実施項目	H24年度上期	H24年度下期	H25年度
1. 現場を支える社員の技術力維持・向上・継承上の課題の抽出及び対応策の検討	技術力の抽出・整理 ■	対応策の検討 □	対応策の実施、継続的改善
		課題の抽出・整理 □	
2. 原子力安全に対する理解の深化方策の検討	方策の検討 □	方策の実施 ■	
3. 活動の総合評価		意見交換、評価 □	

# 福島第一原子力発電所事故を踏まえ、広い視野から規制の枠にとらわれない原子力安全の更なる確保

## 活動の目的

福島第一原子力発電所事故を踏まえ、当社は過酷事故に対する緊急安全対策等を実施してきた。H24年4月に国が策定した再起動の判断基準に対し、実施計画を取りまとめ、着実に実施すると共に世界最高水準の安全性を達成すべく、事故報告書等から得られる知見や、国内外の最新技術情報を積極的に収集し、反映すべき事項を抽出し、自主的かつ継続的に、安全性・信頼性の向上に取り組む。

## 実施内容

- 推進体制の構築と活動の評価**
  - ・上期に活動の推進体制を構築し、下期に取組みの評価を行い、次年度の活動に向けたPDCAを図る。
- 更なる安全性・信頼性向上対策の実施計画の進捗状況の確認**
  - ・四半期毎に実施計画の進捗状況の確認を行い、国に報告を行う。
- 世界最高水準の安全性を目指した各種知見の検討ならびに反映**
  - (1)福島第一原子力発電所事故に関する事故報告書から得られる知見・教訓の反映
  - (2)電気事業連合会で設置される独立新組織からの提言勧告への対応
  - (3)WANO\*1の積極的な活用、活動への参画(下期に項目追加)

\*1 世界原子力発電事業者協会

## 取組状況(1/2)

- 推進体制の構築と活動の評価**
  - ・原子力事業本部長をトップとする安全対策推進会議を設置(H24.6)
- 更なる安全性・信頼性向上対策の実施計画の進捗状況の確認**
  - ・第一四半期の実施計画の進捗状況を確認し、原子力安全検証委員会への報告後、国に提出した。第二四半期の進捗状況を確認した。
- 世界最高水準の安全性を目指した各種知見の検討ならびに反映**
  - (1)福島第一原子力発電所事故に関する事故報告書から得られる知見・教訓の反映
    - ・H24年に発行された政府、国会、東電、民間、INPO\*2、Team H2O(大前研一主催)の事故報告書から、知見・教訓等を抽出している。
    - ・設計、運用面では、これまでの対策で実施済または実施中であることを確認し、更なる対応として、「シビアアクシデント対策プロジェクトチーム」の整備等、対策の充実を図った。

\*2 米国原子力発電運転協会

## 取組状況(2/2)

- (2)電気事業連合会で設立される独立新組織からの提言勧告への対応
  - ・年内の設立に向け独立新組織の設立準備に協力している。

## 今後の対応

- 推進体制の構築と活動の評価**
  - ・活動結果を評価し、必要により改善を行う。
- 更なる安全性・信頼性向上対策の実施計画の進捗状況の確認**
  - ・四半期毎の進捗確認を継続実施する。
- 世界最高水準の安全性を目指した各種知見の検討ならびに反映**
  - (1)福島第一原子力発電所事故に関する事故報告書から得られる知見・教訓の反映
    - ・今後新たに出される報告書や知見についても検討・反映する。
  - (2)電気事業連合会で設立される独立新組織からの提言勧告への対応
    - ・独立新組織の設立準備に協力し、設立後は独立新組織から得られる提言、勧告を反映する。
  - (3)WANOの積極的な活用、活動への参画
    - ・下期に予定されている高浜発電所、美浜発電所のピアレビューに積極的に対応し、世界最高水準に比した改善要望事項に対応していく。
    - ・WANOが主催する専門家会議やセミナー、技術情報交換などを通じて、更なる安全性向上に資する。

## スケジュール

実施項目	計画		実績
	H24年度 上期	H24年度 下期	
1. 推進体制の構築と活動の評価	構築		評価
2. 更なる安全性・信頼性向上対策の実施計画の進捗状況の確認		計画の実施	
3. 世界最高水準の安全性を目指した各種知見の検討ならびに反映		進捗確認	
(1)福島第一原子力発電所事故に関する事故報告書から得られる知見・教訓の反映			
(2)電気事業連合会で設立される独立新組織からの提言勧告への対応	設立準備、協力	提言、勧告の反映	
(3)WANOの積極的な活用、活動への参画			

# 平成24年度 重点施策の方向性

参考

## H24年度の重点施策の方向性

H23年度評価の視点		H23年度評価 ●:課題 ◇:気がかり	
組織・人の意識、行動	トップコミットメント	【視点①】 安全(プラント安全、労働安全、社会の信頼)を何よりも優先するというプライオリティが明確か	◇福島第一原子力発電所事故を踏まえ、広い視野から規制の枠にとどまらず、原子力の安全を何よりも優先するプライオリティが明確になっているか注視していく。
		【視点③】 現場第一線はトップの考え、価値観を理解し、実践しているか	社員 ◇トラブルや労働災害の発生状況に鑑みた安全意識の徹底に係る活動状況について注視していく。 協力会社 ◇協力会社作業員の安全意識の向上のための活動が継続的に実施されていくか注視していく。
		【視点④】 資源投入、資源配分は適切か	◇福島第一原子力発電所事故を踏まえ、ハード面、ソフト面に係る様々な課題がある中で、中長期的な要員配置、および必要な技術力の更なる向上がなされていくか継続して注視していく ◇ベテラン社員から若手社員に今後徐々に置き換わる中で実質的なマンパワー(要員×力量の総和)が維持されているか継続して注視していく(⇒社員の育成状況、技術継承への対応をモニタリング) ◇福島第一原子力発電所事故を踏まえ、大きな視点から規制の枠にとどまらず原子力の安全をチェックできる体制になっているか注視していく。
	コミュニケーション	【視点⑥】 組織内、組織間の連携は良好か	◇連携強化WG、調整会議等にて事業本部および発電所の調整が適切に図られていくか注視していく。
		【視点⑦】 協力会社との意思疎通が十分行われているか	●当社・協力会社における意思疎通を強化していく、(社員・協力会社社員の意識のギャップを踏まえる) ◇福島第一原子力発電所事故を受けプラントの再稼動時期が不透明な状況であっても、協力会社へは最新の状況等について情報提供するなど、意思疎通が図られていくか注視していく。
		【視点⑧】 外部へのタイムリーかつわかりやすい情報提供を行っているか	◇今後とも、福島第一原子力発電所事故を踏まえた対応状況、エネルギーベストミックス、原子力の位置づけ、プラントの安全性については、丁寧な理解活動を心がける必要がある。 ◇新たに原子力防災対策を講ずべき区域が広がったこと等に伴い、原子力に関する情報提供が必要なエリアが広がっていくことに対し、これが丁寧かつ適切に行われていくか注視していく。 ◇常に社会的信頼を失うリスクに留意した業務遂行がなされていくか注視していく。
	学習する組織	【視点⑨】 若手社員の育成、技術継承により必要な技術力を維持しているか	社員 ●若手社員の育成策が有効に機能してきているにもかかわらず、依然として必要な技術力の維持に関する課題が抽出される原因を明らかにする必要がある。 ◇若手社員が早い段階から、現場で能力を発揮できるようにするための人材育成策が継続していくか注視していく。
			協力会社 ◇協力会社の力量の維持、向上に向けた支援が効果的に行われていくか注視していく。
		【視点⑩】 ルールは遵守されているか。業務改善のためのルール見直しに努めているか	◇法令上の手続きのより確実な実施に向けた取組みを注視していく必要がある。 ◇法制度の変更に伴い、必要な法令上の手続きが行われていくか注視していく。 ◇不要な業務削減等のルール改善が適宜継続的に図られていくか、今後も注視していく。
		【視点⑪】 トラブルや不具合を踏まえた主体的な問題解決、改善活動を実施しているか。【是正処置・予防処置】	◇福島第一原子力発電所事故を踏まえた対応等に注力していることから、是正処置・予防処置活動が低調になっていないか注視していく。 ◇福島第一原子力発電所事故を踏まえ、海外からの情報や外部の指摘等について、より積極的に情報収集、反映されていくか注視していく。
		【視点⑫】 現状への問いかけや組織全体のリスク感知能力を通じて、トラブル・労災の未然防止に努めているか[未然防止]	●福島第一原子力発電所事故を踏まえ、広い視野から規制の枠にとらわれず原子力安全の更なる確保に取り組んでいく必要がある。 ◇協力会社作業員の安全意識の向上のための活動が継続的に実施されていくか注視していく。
	安全の結果	労働安全	◇これまでの重点施策を初めとした協力会社作業員の安全意識の向上のための活動が継続的に実施されていくか注視していく。 ◇保護具の未着用による労災が見られるため、TBMなどの基本的な現場の取組みが確実に実施されているか注視していく。
		社会の信頼	◇法令上の手続きのより確実な実施に向けた取組みを注視していく必要がある。 ◇協力会社における職業安定法違反に係る行政指導に関して、今後の再発防止を注視していく。

**継続①** 当社・協力会社における意思疎通の強化(社員・協力会社社員の意識のギャップを踏まえる)

**新規①** 技術力維持にかかる社員育成策の充実、強化

**新規②** 福島第一原子力発電所事故を踏まえ、広い視野から規制の枠にとらわれない原子力安全の更なる確保